第8章 計画の実現に向けて

1 計画の達成状況の評価

(1) 基本的な考え方

本計画では、「変わりゆく地域の暮らしとまちの姿に対応した持続可能な公共交通の構築」を基本方針として、2つの計画目標と10の事業を位置づけました。今後、本計画の基本方針に基づいて事業を推進する中で結果を定期的・定量的に評価するとともに、必要に応じて見直しを行う必要があります。

2つの計画目標と10の事業は相互に関連するため、計画の達成状況进行评估する評価指標として、「市民一人当たりの鉄道・バス等年間利用回数」を設定することとします。

また、国の地域公共交通確保維持事業（幹線補助及びフィーダー補助）を活用し運行している、広益線、生活交通バス（玖西循環線）及び過疎地域乗合バス（叶木線・二鹿線・持ヶ峠線）に対しては、個別の評価指標として、経常収支率、公的負担額及び市民一人当たりのバス年間利用回数（広益線は公共交通利用者数）を設定します。

(2) 評価指標と目標値

本計画の目標を実現するため、2021（令和3）年度を基準とし計画期間の2031（令和13）年度に達成すべき目標値を、前項で設定した評価指標に基づき、次のとおり設定します。

表1 評価指標と目標値

		評価指標：市民一人当たりの鉄道・バス等年間利用回数		
		【基準値】 2021(R3)年度時点	【中間目標値】 2026(R8)年度時点	【最終目標値】 2031(R13)年度時点
岩国・由宇 エリア	鉄道	29.0回	29.1回	29.1回
	バス等	11.2回	11.3回	11.3回
玖西エリア	鉄道	11.4回	11.5回	11.5回
	バス等	3.4回	3.5回	3.5回
玖北エリア	鉄道	17.4回	17.5回	17.5回
	バス等	8.3回	8.4回	8.4回

今後は更に人口減少が見込まれ、公共交通の利用者も減少すると予想されます。一方で、年間を通じて鉄道やバス等を利用していない市民の中にも、公共交通のサービスが改善されたら利用するという層も一定数存在することが市民アンケートで分かりました。本計画に位置づけた各施策の実施により、2031(R13)年度までに、この層の市民の1割が1年間に4回(2往復)利用するようになることを想定し、目標値として設定します。なお、目標値は、下記のとおりエリア別に把握・算出します。

【算定対象】

岩国・由宇エリア	鉄道	JR 山陽線 岩国駅～神代駅の年間乗車人員の合計 JR 岩徳線 西岩国駅～柱野駅の年間乗車人員の合計
	バス等	いわくにバス（高速乗合バス除く）の年間利用者 由宇地区バスの年間利用者 岩国市過疎地域乗合バスの年間利用者 岩国市乗合タクシー「よべるん」の年間利用者
玖西エリア	鉄道	JR 岩徳線 欽明路駅～米川駅の年間乗車人員の合計
	バス等	岩国市生活交通バス 玖西エリア全線 防長交通（高速乗合バス除く）の年間利用者
玖北エリア	鉄道	錦川清流線 錦町駅～川西駅の年間利用者数
	バス等	岩国市生活交通バス 玖北エリア全線の年間利用者 坂上線の年間利用者数
人口		住民基本台帳（各年度 12 月 1 日時点）

(3) 評価指標と目標値（フィーダー補助・幹線補助路線）

本計画の目標を実現するため、計画期間の 2031（令和 13）年度に達成すべき目標値を、次のとおり設定します。

指標① 経常収支率

数値目標	生活交通バス（玖西循環線）	現状値	4.3%	目標値	2026 年度（中間目標値） 2031 年度（最終目標値） 現状値以上
	過疎地域乗合バス （叶木線・二鹿線・持ヶ峠線）		2.8%		
	広益線		56.3%		
目標値設定 の考え方	効率的な運行や利用者増による運賃収入の増加を目指しますが、人件費、燃料費、車両管理費などの運行経費の増加も想定されることから、現状より低下させないことを目標値とします。				

・現状値は、令和 4 年 10 月 1 日から令和 5 年 9 月 30 日まで[※]の各路線における収入・支出を基に算出。

※ 広益線は令和 3 年 10 月 1 日から令和 4 年 9 月 30 日まで

現在、広益線運行にあたって、本市での公的負担はありません。

指標② 公的負担額（市負担額）

数値目標	生活交通バス（玖西循環線）	現状値	13,056 千円	目標値	2026年度（中間目標値） 2031年度（最終目標値） 現状値以下
	過疎地域乗合バス （叶木線・二鹿線・持ヶ峠線）		14,075 千円		
	広益線		0円		
目標値設定 の考え方	効率的な運行や利用者増による運賃収入の増加を目指しますが、人件費、燃料費、車両管理費などの運行経費の増加も想定されることから、現状より低下させないことを目標値とします。				

・現状値は、令和5年12月時点における経費算定基準により算出した運行にかかる経費から運賃収入を引いた額で算出。

適切な字句に修正しました。

指標③ 市民一人当たりのバス年間利用回数

数値目標	生活交通バス（玖西循環線）	現状値	0.22回	目標値	2026年度（中間目標値）	2031年度（最終目標値）
					0.23回	0.23回
	過疎地域乗合バス （叶木線・二鹿線・持ヶ峠線）				0.84回	0.85回
目標値設定 の考え方	人口減少下で、今後の利用者は減少すると予想されますが、地区住民や利用者へのアンケートなどを通じて 効率的なニーズに合わせた 運行を行うことで、市民一人当たりのバスの年間利用回数を増加させることを目標値とします。					

・現状値は、各路線における令和3年度の利用者数を各地区人口で割ったもの。

本市内における利用者数ではなく、路線全体での利用者数

指標④ 公共交通利用者数

数値目標	広益線	現状値	59,400人	目標値	2026年度（中間目標値） 2031年度（最終目標値） 現状値以上
目標値設定 の考え方	人口減少下で、今後の利用者は減少すると予想されますが、モビリティ・マネジメントなどを通じて、路線の周知を図ることで、現状値の維持を目指します。				

・現状値は令和4年度の利用者数。（路線全体での利用者数）